

北陸企業の 針路

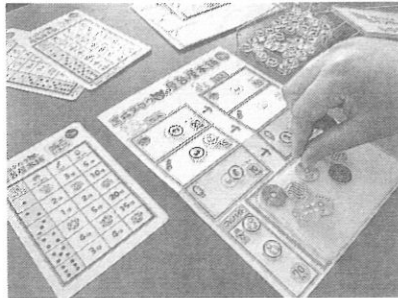
双申

経営コンサルティンクのある。

双申(福井県南越前町、嶋崎喜一社長)は起業希望者向けなどに、お金の流れや仕入れといった商売の基本を簡単に学べるゲームの拡販に力を注いでいる。2011年秋に発売した「黒猫タロウの屋台屋本舗」は遊ばながら経営の基本が身につくゲームとして注目を集めている。

北陸

経営学べるゲーム開発



「屋台屋本舗」では商品の仕入れや人件費などの概念を学べる

学校向け教材にも的

た具合。売った分だけ手元資金が増える。従業員の人件費を計上するのルールだ。使うボードにもよるが、サイコロを振るたびに売れ残った商品は破棄し、損失が発生する仕組みも取り入れた。売上高から経費を引き、手元に

残る現金がスタート時の資金を上回っていけば、経営が成り立っていることになる。そこで利用者のすそ野を広げようと開発したのが「屋台屋本舗」だ。価格も2万1000円に抑えた結果、県内外の商工会議所など主催する経営セミナーは学びにくい概念をゲームを通じて

成長へ 製品多様化が課題

1990年設立の双申の前身は、嶋崎喜一社長が父親から経営を引き継いだリボン工場。価格競争が厳しく、少しでも利幅を広げようと経営を学び始めたものの、書店に並ぶのは専門用語がぎっしり詰まった本ばかり。「自分のための教材」として考案したが、同社の屋台屋である経営を学べるゲームだ。足元の課題は成長戦略。同社は広告製作も手がけているが、2011年11月期の売上高は約2000万円。教材はすでに完成度が高く、新たな製品を次々に生み出すのは難しい。経営ゲームはボードゲームタイプしかないが、利用者を大幅に増やす可能性を秘めたタブレット(多機能携帯端末)向け製品などの開発も必要な時期を迎えている。

(福井支局 小山隆史)

身につけられる」と説明する。同社は20年以上前から、「トータルゲーム」という別の商品も手がけている。人材育成や研究開発、市場の拡大といった要素も盛り込んだゲームだが、価格が役立っている。さらに双申が売り込み先として着目しているのが教育市場。大学や高校などでビジネス教育が盛んになっていくのを受け、学校向け販売に力を入れ始めた。すでに愛知県内の大学や高校が教材として採用した。当面は発売から3年以内

金沢支局 0766-4232-3321
富山支局 0776-4322-3321
福井支局 0776-2221-344631